

2025 年度大学院授業アンケート結果概要

はじめに

本学大学院（修士課程）における授業アンケートは2005年度から開始されました。

大学院に開講されている全ての授業を対象として、春学期科目、秋学期通年科目ともに12月上旬に行い、その結果については、各研究科委員会に報告されてきました。また、この間、個別科目の回答結果の担当教員への返却、授業アンケート結果等を踏まえた授業改善報告書の作成等、大学院として教育の改善に取り組んできました。

授業アンケート結果については、従来各研究科委員会の中で報告が行われてきましたが、2018年度のアンケートから、学部における授業アンケート結果と同様、IR実施委員会の下で授業アンケート結果の分析を行うこととともに、2019年度から質問項目を一部変更するとともにWebアンケートによる方式に改めました。

各教員が担当する授業のアンケート結果に加えて、大学院全体としての結果を確認することによって、更なる授業改善につなげていく機会にいただければと考えています。

実施方法：

演習指導教員を通じて院生に実施を周知。Webアンケートにより実施

実施概要：

	臨床心理学	犯罪心理学	法学	経済・経営学	メディア情報学	計
在籍者数	15名	7名	0名	11名	6名	39名
履修科目数	151科目	51科目	0科目	72科目	45科目	319科目
回答科目数	56科目	7科目	0科目	59科目	25科目	147科目
回答率	37.1%	13.7%	—%	81.9%	55.6%	46.1%

Q1. どの研究科・専攻に所属していますか。

Q2. 何年次生ですか。

全体の回答率は46.1%で、昨年の41.8%、一昨年の45.0%とほぼ同水準であり、コロナ禍前の2019年度の63.1%に比べて低く、心理学研究科両専攻の回答率が低い結果となりました。

また、学年ごとの回収率は、1年次生48.2%（123/255）、2年次生37.5%（24/64）であり、1年次生がやや高くなりました。

Q3. 主にどのような理由でこの科目を履修しましたか。

全体では1. 必修だから を選択した層の割合が34.0%（昨年度40.8%、一昨年度35.7%）、2. 研究に必要なから を選択した層の割合が26.5%（昨年度30.5%、一昨年度16.4%）、4. 知識・技能を広げるため を選択した層の割合が19.7%（昨年度15.5%、一昨年度27.9%）、3. 将来の進路に役立つから を選択した層の割合が16.3%（昨年度12.6%、一昨年度19.3%）と4肢に回答が集まりました。また、

近5年に引き続き、5.先輩や友達にすすめられたから を選択した層の割合は0.7%と低く、コロナ禍以降の影響も考えられます。

専攻別では、従前同様、心理学研究科の両専攻において、1.必修だから を選択した層の割合が高く、総合政策研究科は、2.研究に必要だから を選択した層の割合が高くなりました。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 必修	55.4%	71.4%	—%	11.9%	28.0%	34.0%
2. 研究必要	5.4%	0.0%	—%	42.4%	44.0%	26.5%
3. 進路に資する	23.2%	0.0%	—%	13.6%	12.0%	16.3%
4. 知識技能	14.3%	28.6%	—%	32.2%	0.0%	19.7%
5. 先輩友達薦め	1.8%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.7%
6. 時間割都合	0.0%	0.0%	—%	0.0%	16.0%	2.7%
7. 修得が容易	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%
8. その他	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 4. この科目の履修は、どのようにして決めましたか。決めるのに最も役に立ったものを1つだけ選んでください。

全体では、3.教員の指導 を選択した層の割合が59.2%（昨年度51.7%、一昨年度51.4%）、2.シラバスを読んで を選択した層の割合が19.2%（昨年度28.2%、一昨年度30.0%）、1.ガイダンスでの説明 を選択した層の割合が10.2%（昨年度18.4%、一昨年度12.1%）と3肢に集まり、コロナ禍以前に一定の割合があった6.その他上記以外 を選択した層の割合は8.8%（昨年度7.5%、一昨年度6.4%）であり、全体では、近4年とほぼ同様の割合となりました。

専攻別では、臨床心理学専攻では、3.教員の指導 が53.6%と過半数を占め、犯罪心理学専攻では、1.ガイダンスでの説明 及び3.教員の指導 がそれぞれ42.9%、28.6%と2肢に集まりました。経済・経営学専攻では、指導教員による履修指導の割合が76.3%と高く、メディア情報学専攻では、2.シラバス 及び3.教員の指導がそれぞれ40%台を占めています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. ガイダンス	16.1%	42.9%	—%	1.7%	8.0%	10.2%
2. シラバス	5.4%	14.3%	—%	22.0%	48.0%	19.7%
3. 教員の指導	53.6%	28.6%	—%	76.3%	40.0%	59.2%
4. 窓口で相談	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 先輩に相談	1.8%	14.3%	—%	0.0%	4.0%	2.0%
6. 上記以外	23.2%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	8.8%

Q 5. 授業開始時に示されたシラバスに沿った授業が行われていましたか。

肯定的な回答を選択した層の割合が93.2%（昨年度97.7%、一昨年度98.6%）で近4年は90%を超えています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. きちんと	44.6%	71.4%	—%	57.6%	80.0%	57.1%
2. ある程度	46.4%	28.6%	—%	39.0%	8.0%	36.1%

3. どちらとも	5. 4%	0. 0%	—%	3. 4%	12. 0%	5. 4%
4. あまり	3. 6%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	1. 4%
5. 全く	0. 0%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	0. 0%

Q 6. この科目の到達目標は明確に示されていましたか。

肯定的な回答を選択した層の割合が 90. 5%（昨年度 97. 1%、一昨年度 98. 6%）を占め、近 4 年は 90% を超えています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん明確	25. 0%	71. 4%	—%	57. 6%	80. 0%	49. 7%
2. かなり明確	58. 9%	28. 6%	—%	39. 0%	8. 0%	40. 8%
3. 何ともいえない	16. 1%	0. 0%	—%	3. 4%	12. 0%	9. 5%
4. あまり明確でない	0. 0%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
5. 目標がわからない	0. 0%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	0. 0%

Q 7. この科目の欠席回数は何回でしたか。

欠席回数 0 回を選択した層の割合が 55. 1%（昨年度 64. 4%、一昨年度 75. 0%）と近 4 年はコロナ禍以前の水準に戻っています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 0 回	82. 1%	0. 0%	—%	45. 8%	32. 0%	55. 1%
2. 1-3 回	17. 9%	100. 0%	—%	54. 2%	64. 0%	44. 2%
3. 4-7 回	0. 0%	0. 0%	—%	0. 0%	4. 0%	0. 7%
4. 8-11 回	0. 0%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	0. 0%
5. 12 回以上	0. 0%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	0. 0%

Q 8. 授業時間以外に、この科目のために一週間に平均してどれぐらい勉強しましたか？

過去 2 年の結果も参考に掲載しました。

授業外学習時間については、昨年度より選択肢 1 の割合がやや低下していますが、特に臨床心理学専攻では、4. 1 時間-30 分 を選択した層の割合が 55. 4%と過半数を超えています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 4 時間以上	0. 0%	57. 1%	—%	8. 5%	16. 0%	8. 8%
2. 4-2 時間	7. 1%	28. 6%	—%	35. 6%	28. 0%	23. 1%
3. 2-1 時間	17. 9%	14. 3%	—%	30. 5%	40. 0%	26. 5%
4. 1 時間-30 分	55. 4%	0. 0%	—%	13. 6%	0. 0%	26. 5%
5. 30 分以下	17. 9%	0. 0%	—%	11. 9%	0. 0%	11. 6%
6. 0 分	1. 8%	0. 0%	—%	0. 0%	16. 0%	3. 4%

＜参考 昨年度＞

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 4 時間以上	12. 1%	10. 5%	—%	11. 7%	20. 7%	13. 2%

2. 4-2 時間	15.2%	31.6%	—%	13.3%	55.2%	23.0%
3. 2-1 時間	36.4%	52.6%	—%	35.0%	17.2%	34.5%
4. 1 時間-30 分	31.8%	0.0%	—%	26.7%	6.9%	22.4%
5. 30 分以下	3.0%	5.3%	—%	13.3%	0.0%	6.3%
6. 0 分	1.5%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.6%

<参考 一昨年度>

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. 4 時間以上	3.0%	0.0%	33.3%	6.7%	0.0%	5.0%
2. 4-2 時間	20.9%	100.0%	16.7%	17.8%	38.1%	22.9%
3. 2-1 時間	34.3%	0.0%	33.3%	42.2%	42.9%	37.9%
4. 1 時間-30 分	23.9%	0.0%	0.0%	22.2%	9.5%	20.0%
5. 30 分以下	14.9%	0.0%	16.7%	11.1%	4.8%	12.1%
6. 0 分	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	2.1%

Q 9. テキストや配布資料などは授業を理解するうえで役に立ちましたか。

テキストや配布資料が役立ったという回答が 89.1%（昨年度 90.2%、一昨年度 97.1%）となり、近 4 年は、3. どちらともいえない が 5.4%（昨年度 7.5%、一昨年度 0.7%）、6. テキストや資料は使われなかった を選択した層が 5.4%（昨年度 2.3%、一昨年度 2.1%）に低下しています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん	35.7%	57.1%	—%	57.6%	76.0%	52.4%
2. かなり	51.8%	14.3%	—%	37.3%	8.0%	36.7%
3. どちらとも	8.9%	0.0%	—%	0.0%	12.0%	5.4%
4. あまり	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 全く	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%
6. 使われなかった	3.6%	28.6%	—%	5.1%	4.0%	5.4%

Q 10. 担当教員は意欲的に授業をおこなっていましたか。

教員の意欲を感じたとの回答が 94.6%（昨年度 97.1%、一昨年度 98.6%）で、IR 実施委員会で分析を開始した 2018 年度以降、90%を超えています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1. たいへん	60.7%	100.0%	—%	64.4%	72.0%	66.0%
2. かなり	32.1%	0.0%	—%	35.6%	12.0%	28.6%
3. どちらとも	5.4%	0.0%	—%	0.0%	16.0%	4.8%
4. あまり	1.8%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.7%
5. 全く	60.7%	100.0%	—%	64.4%	72.0%	66.0%

Q 1 1. この科目の進みぐあいは適切でしたか。

授業進度について、全体では 73.5%（昨年度 67.8%、一昨年度 90.0%）が適切と回答しています。反面、「速い」と感じた回答の割合は 23.1%（昨年度 31.6%、一昨年度 6.5%）で、1.非常に速かったを選択した層の割合は 10.9%と昨年度の 23.0%から低下しています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1.非常に速かった	0.0%	28.6%	—%	15.3%	20.0%	10.9%
2.かなり速かった	3.6%	14.3%	—%	23.7%	4.0%	12.2%
3.適切だった	89.3%	42.9%	—%	61.0%	76.0%	73.5%
4.どちらかといえば遅かった	7.1%	14.3%	—%	0.0%	0.0%	3.4%
5.非常に遅かった	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 1 2. この科目が目指している知識や能力や技術が身についてきていると感じましたか。

身についた知識・能力・技術については、89.8%（昨年度 94.3%、一昨年度 96.4%）が肯定的な回答をしています。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1.十分に	0.0%	71.4%	—%	57.6%	76.0%	39.5%
2.ある程度	80.4%	28.6%	—%	42.4%	8.0%	50.3%
3.どちらとも	16.1%	0.0%	—%	0.0%	16.0%	8.8%
4.あまり	3.6%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	1.4%
5.全く	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 1 3. この科目をうけてあなたの研究（テーマ）への手掛かりを得られましたか。

研究（テーマ）への手掛かりについては、70.1%（昨年度 82.1%、一昨年度 82.1%）が肯定的な回答をしています。2021～22 年度調査では、臨床心理学専攻において、3.どちらともいえないを選択した層の割合が 50%を超えていたところですが、今回の臨床心理学専攻は当時と近い割合になりました。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1.たいへん	12.5%	71.4%	—%	47.5%	64.0%	38.1%
2.かなり	17.9%	14.3%	—%	50.8%	24.0%	32.0%
3.どちらとも	41.1%	14.3%	—%	1.7%	12.0%	19.0%
4.あまり	28.6%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	10.9%
5.全く	0.0%	0.0%	—%	0.0%	0.0%	0.0%

Q 1 4. この科目に対するあなたの学修及び研究に対する取組を自己評価してください。

取組自己評価については、85.7%（昨年度 90.8%、一昨年度 94.3%）が肯定的な回答をしています。臨床心理学専攻については、2020.21 年度は他の 4 専攻とやや傾向が異なっており、2022～24 年は他専攻に近い回答分布でしたが、今回の調査では 2020.21 年度に近い割合になりました。

選択肢/専攻	臨床	犯罪	法学	経済・経営	メディア	計
1.たいへん	8.9%	57.1%	—%	33.9%	84.0%	34.0%

2. かなり	62. 5%	28. 6%	—%	66. 1%	0. 0%	51. 7%
3. どちらとも	26. 8%	14. 3%	—%	0. 0%	16. 0%	13. 6%
4. あまり	1. 8%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	0. 7%
5. 全く	0. 0%	0. 0%	—%	0. 0%	0. 0%	0. 0%

まとめ

2025 年度のアナケート回答率は 46. 1%（147/319 科目）で、昨年の 41. 8%、一昨年の 45. 0%とほぼ同水準であり、コロナ禍前の 2019 年度の 63. 1%に比べて低く、心理学研究科両専攻の回答率が低い結果となりました。

各設問の回答については、肯定的な回答の割合は、近 3 年より若干低下したものの、引き続き高い割合を示しており、Q8. 自習時間等の設問では、回答傾向の変更も見られました。

2026 年度に向けては、回答率の回復とともに、それぞれに回答内容について、各専攻の F D 等における検討や検証等を要すると考えています。

以上